#13
PG/SG

“激しく情熱的なバスケを見せたい”

津山 尚大
Shota Tsuyama

今後のキングスを担う若手ホープ

今季、キングスが熱戦を繰り広げる中で、著しい成長を遂げた選手がいる。それは、沖縄県出身の津山尚大選手だ。バスケの名門・福岡大学附属大濠高校時代に屈指のスコアラーとして活躍し、卒業後に念願だったキングスに入団。筋骨隆々ながら最年少らしいあどけなさも持ち合わせていて、周りから可愛がられる存在だ。一方、試合ではその才能が爆発。

「自分の持ち味は外角のシュート。今シーズンは外へ(相手を)おびき出しながら攻め込んでいって、チャンスメイクや中の得点を増やす動きを意識しています」

と話すように、今季からはプレースタイルを一新した。得意とする外からの攻撃に加え、チャンスがあれば果敢にゴール下を狙い、守りにおいては相手チームのエースとのマッチアップを担う。攻守にわたりゲームをコントロールし、その存在感を示している。

重要な場面で決める3Pシュートは、今後もチームにとって大きな得点源となるだろう。

それを表している試合が、昨年11月12日の西宮ストークス戦。窮地に立たされる中、3Pシュートのみならず、アタックから得たフリースローを高確率で成功させ、4Qだけで13得点の活躍を見せた。結果として20得点、5リバウンド、3アシストをマーク。チームの勝利に大きく貢献した。また、1月29日の同じく西宮戦で印象的だったのが、1Qの終わりにセンターライン付近から決めた劇的なブザービーター。その試合はディフェンスとオフェンスの両面で力を発揮。13得点3アシストとスコアに絡むプレーを見せ、チームを勢いづけた。

チームの魅力と佐々ヘッドコーチの印象

彼は、キングスの魅力をこう話す。

「攻守の切り替えが早くて、激しいディフェンスから素早くオフェンスに持っていくところですね」

そして、今季から指揮を執っている佐々HCの印象を訊いた。

「コーチには理論的な人もいれば、情熱的な人もいます。佐々さんの場合はその両方を持っていて、細かい部分はありますけど、しっかりやれば褒めてくれるし、ダメなところはダメと言ってくれるので、とても為になっています。僕自身、入団して4季目なので結果が求められるシーズン。練習してきたものを試合でしっかりと出していきたいです」

以前そう語っていた津山選手について、佐々HCも「今の彼は気持ちの部分でまだ弱い面はあるものの、大きく成長したと思う」とコメント。今後の伸びしろに大きな期待がかかる。

試合のない時には温泉やサウナに入ったり、オフの日にはトレーニング後にチームメイトと食事をしたりしてリラックスしているという彼から、ファンに向けてメッセージをもらった。

「今シーズンのキングスは、昨年とまた違う魅力があったと思います。激しく情熱的なバスケットで、応援してくださる方が感動したり、楽しんだりできるゲームにしますので、ぜひ応援をよろしくお願いします！」

力強いプレーに頼もしさを感じるこの若き選手に、これからも要注目！

Profile

1996年4月16日、沖縄県中頭郡北谷町生まれ。180cm、79kg。ポジションはポイントガード / シューティングガード。福岡大学附属大濠高校時代、インターハイと国体の2冠を達成。高校卒業前に琉球ゴールデンキングスと契約。チーム最年少の22歳。